

「県民と県議会との意見交換会」 **宮古市会場** の概要

〔日 時〕 令和5年12月21日（木）13：00～15：00

〔場 所〕 宮古地区合同庁舎 大会議室

〔テーマ〕 若者の県内就職と県内定着について

〔参加者〕 （6名）

遠 藤 隆 史（岩手県立大学宮古短期大学部 経営情報学科2年）

菊 地 由 華（岩手県立大学宮古短期大学部 経営情報学科2年）

窪 田 綾（岩手県立宮古高等看護学院 看護学科3年）

土 橋 亜 未（岩手県立宮古高等看護学院 看護学科3年）

中 村 優 斗（岩手県立宮古高等技術専門学校 自動車システム科2年）

姉 石 慎 也（岩手県立宮古高等技術専門学校 金型技術科）

〔出席議員〕（8名）

千葉秀幸議員（座長）、大久保隆規議員、畠山茂議員、はぎの幸弘議員、
鈴木あきこ議員、千葉盛議員、村上貢一議員、小林正信議員

〔オブザーバー議員〕（1名）

城内愛彦議員

◆ 参加者自己紹介及び現在学んでいること等について

○窪田さん

2人の子育てをしながら釜石市から毎日通学している。語学に興味があり高校卒業後は都内の大学に進学したが、在学中に東日本大震災津波があったことと親の発病がきっかけで、岩手県にUターンした。

親のみとり、在宅での介護、自分の出産を経験する中、たくさんの医療従事者に支えられる機会が多かった。自分も看護師として知識や技術を学び、県民の医療の支えになりたいと思い、社会人入学試験選考で入学した。本日はUターンや社会人の経験をすることで感じたことをお話できればと思う。

○土橋さん

医師や看護師、様々な職種の方からの講義を受けたり、実際に病院に行き実習したりしながら、看護についての知識や技術を学んでいる。

北上市の出身だが、東日本大震災津波をきっかけに看護師を目指し、災害看護について詳しく学んでいきたいと考えて、沿岸部にある宮古高等看護学院に進学した。実際に災害についても勉強になるし、日々の患者さんとのかかわりの中で被災の経験を聞くことができ、とても将来に役立っていると感じる。

○中村さん

出身は宮古市。学校では自動車整備士の資格を取るための勉強をしており、それに見合った実習もできる。小さい頃から車に興味を持っていて、それがきっかけで入校した。

○姉石さん

出身は宮古市。金型技術科に入って機械操作についての基本的な知識や操作方法を覚えてから、就職して地元で役に立ちたいと思い、入校した。基本的な機械操作や工具の取り扱い方などを学んでおり、資格取得や学校内である大会に向けて、日々、機械操作の練習をしている。就職内定をいただき、来年4月から地元で働く。

○遠藤さん

出身は宮城県仙台市。経営と情報、文系と理系の両方を学べる学校の特徴から入学を選んだ。ゼミでは、ドローンと防災を掛け合わせた、特に震災の初動対応でどうドローンを活用できるか、有効性や効果を研究している。岩手県に内定をいただき、4月から働く。

○菊地さん

出身は久慈市。高校時代に学んだプログラミングについてもっと深く学びたいと考え、入学した。経営についても学んでいるが、基本的にはプログラムを中心に学んでおり、特別研究ではドローンの飛行記録を取るシステムをつくる研究している。将来はドローンに関する職に就きたいと思っており、就職活動中である。

◆ 意見交換

○鈴木あきこ議員

窪田さんに伺いたい。一度社会に出て、お子さんもいるということで、大変一生懸命勉強されているところと思う。震災後、介護、出産、子育ての経験もある中、そのときは大変だったが、今、看護学校で勉強する中で、いろいろわかることがたくさんあると思う。一番よかったと思うことは何か。

〔回答：窪田さん〕

当時は、出産も介護も何もかも初めての経験だったので、家族に対して何もできなかったことが悔しいという思いがある。今、実習でいろいろな患者さんと接していて、その当時家族にできなかったことを、患者さんを通してできたときに、うれしく、入学してよかったと感じる。

○鈴木あきこ議員

私も親を介護し、みとった経験があるが、その時は一生懸命やっても、最期をみとったときにどうしても後悔が残った。そういう思いを経験した看護師が誕生してくれるというのはとても心強い、力強いと思っている。将来看護師になったときには、県内での就職を希望するのか。

〔回答：窪田さん〕

岩手県医療局に内定している。

○鈴木あきこ議員

今、医師もそうだが看護師が不足しているという課題もあるので、県内で一生懸命仕事をしていただければ嬉しい。

○大久保隆規議員

きょうは「若者の県内就職と県内定着について」という大きなテーマがあるが、皆様一人一人の立場で、県内の魅力をどういうところに感じているか。

また、逆に、岩手県としてこういうことをしてほしい、あるいはこういうことがあればいいな、などの生の声をお聞かせいただきたい。

〔回答：遠藤さん〕

将来の夢としてもともと公務員になりたかった。岩手県に就職するのは、岩手県の大学に来たからであり、宮城県と岩手県を比較して、岩手県がよかったからということではない。大学でドローンをやり、将来のやりたいものが明確に決まったという恩を少し感じて岩手県を選んだ部分もある。

岩手県の魅力というより成り行きで岩手県に就職したという少しふわふわした理由であり、岩手にこれをしてほしいというのはあまりなく、現状で十分である。

公務員採用試験のときも、とても丁寧に対応してもらい、すごくありがたかった。

〔回答：菊地さん〕

岩手県と東京を比べると、モノの多さが違うと感じている。中心部である東京都はとてもモノが多いし、人もそれに加えて多くなっている現状がある。若者というのは、自分自身の欲しいモノがすぐに手に入るとか、新しいモノにはすごくワクワクするし、興味を引かれるところが多いと思う。

岩手県のいいところは、人とのつながりが深いところだと感じる。人が少ないからこそ、近い人とのつながりや近所の方とのやりとりは、他にはない素晴らしい文化だと感じている。岩手県だからこそその地元の、例えば新しいモノや皆が知らない部分を発信していけば非常にいいと思う。

私が所属している観光サークルでアンケート調査をしたときも、県外の方から「岩手県はいいところや地元特有のものがすごくあるのだから、もっと発信すれば他の県の方々にも知ってもらえる。県内の人も特色を知ることができるので、もっといろいろ発信していったほうがいい」という御意見をいただいたことがある。もう少し積極的に発信をして、SNSなどにも力を入れていけば、よさを伝えていけると感じている。

〔回答：窪田さん〕

10代の頃は狭いコミュニティを窮屈に感じて絶対県外に出るぞと思っていたが、出てみて、地域のコミュニティの強さや人の温かさが、岩手県の強み、地元の強みなんだと実感する機会がたくさんあった。

子育てにしても、「ちょっと今この時間に子供を見てほしい」と思ったときに、隣近所の方が、「いつでも声をかけて。見てあげるから」と言って預かってくれると、地域で子育てをしているということを実感できる。そこはやはり地元の魅力だなと思った。

求める支援としては、社会人学生を経験してみて、学習する場が自宅だと、時間も場所も取れないことがとてもつらかった。図書館以外にもコワーキングスペースのような、ちょっとプライベートを確保できるスペースがあればいいなと感じた。

〔回答：土橋さん〕

看護師になると決める前から、県外に出たいという思いがあまりなく、それはやはり岩手県が住みやすいことが大きいと思っている。宮古市も地域密着でいろいろ人とつながりを持ったイベントもすごく多いので、住みやすいと感じている。

求める支援策を挙げるとすれば、学校の敷地内の寮に今住んでいるが、エアコンがなく、ことしはすごく暑かった。勉強できる施設を充実させてもらえれば、もっと学ぶ環境が整えられると思う。

〔回答：中村さん〕

出身が宮古市ということもあり学校を選んだ。宮古市出身の同級生も多く話も合い、学校の状態には満足している。

改善してほしいのは、自分の学校限定かもしれないがエアコンがついていないところがあるところ。そういうところも整備していただくと、自分たちも勉強がしやすくなる。

〔回答：姉石さん〕

岩手県は住むのには不自由なく、都会すぎることもない住みやすい県だと思っている。

例えばアーティストなど全国を回るといっても岩手県には来ず、仙台市どまり、あるいは飛ばして北海道に行ってしまうことが多いので、そういうところは少し不満もある。

いろいろ皆様の立場での御意見をいただき、参考になった。これから私の政策などに反映させていきたいと思う。

○はぎの幸弘議員

ほとんどの方が県内への就職が内定されているので、きょうの「若者の県内就職と県内定着」というテーマで聞いていいのかなと思うが、一般論として、今、岩手県は若い人たちが、特に若い女性がどんどん県外に流出していると言われている。

なぜそうなっているのか、多分こういう理由でいなくなっているのではないかなど、客観的にでもいいので、感じていることをお聞かせいただきたい。

〔回答：姉石さん〕

もっと都会化が進んでいるほうに行くのではないか。どこの県でも、暮らすには、住んでしまえば不自由はないと思うが、趣味などを考えると、都市のほうがいろいろなモノがあり、満足できる生活が送れるのではないかと思い、県外に出ると思う。

〔回答：中村さん〕

学校の同級生で県外に就職する人たちの中には、賃金の話や県内には自分のやりたいことがないという人も結構多かった。

〔回答：土橋さん〕

同じような意見だが、服飾の専門学校が県外にあるなど、もっといろいろな分野で深く学ぶことができるという点で県外に行く人がいるのだと思う。

〔回答：窪田さん〕

自分のスキルアップのために急性期を学びたくて県外の病院に就職するという意見が多い。岩手県は少子高齢化が進んで、慢性期の疾患に特化した病院が多いので県外に出てしまうと感じた。

〔回答：菊地さん〕

都心に出るメリットとして、モノが多くて自分のやりたいことがすぐにできること、さまざまな職業があって自分のやりたい職業にもつけるし、選択肢の幅が広がるのがとても大きいと思う。私がやりたい職業もとても狭い分野で、都心のほうが、企業が多く存在しているので、選択肢を広げるためにも、県内だけでなく県外も視野に入れなければならない。人が多い少ないにかかわらず、県外に就職する場合は、自分のやりたいことをすぐ実現できる環境があるというのは大きいと思う。

若い女性が県外によく流出するというお話があったが、若い人は化粧品や流行を追いたいと思う人も多いと思う。化粧品や流行は、都心のほうがいろいろと整っているし、都会に就職したほうが何かと動きやすいし、いろいろ満足できると思って都心に行くことが多いのかなと思う。

〔回答：遠藤さん〕

田舎や都心ではないほうが人のつながりが強い、逆に強すぎて環境を変えたいと思うからこそ、県外や都心に流れていくのではないかと思う。僕自身も県外の大学を選んだのはそういう理由である。高校まで友達などが変わらず、環境をどうしても変えないといけない、宮城の大学に行く結局、環境が変わらず、そのまま同じような感じで人生を全うしてしまうのではないかという不安もあって、県外を選んだ。

友人の中には、カードゲームが大好きで、大会が都心で開かれるので、そちらに行かないとどうしても趣味と仕事を両立できない、と言って東京都に行くという者もいた。

○はぎの幸弘議員

非常に参考になった。モノがあふれているというが、ほとんど地方でつくっているものが東京都に集まっている。日本の政策、政治から変えていかなければいけないというのは非常に強く感じた。

○村上貢一議員

選択の幅を広げることが、今後皆さんが生きていく中で非常に大事なことだし、我々議員としても、選択の幅の豊かさをもっと皆さんに提供していかなければいけない。持続可能な社会というのは、やはり豊かな選択がある社会であると実感した。皆さんが将来にわたって選択できる幅を本当に豊かにしていくのが我々の使命である。

そういう中で盛岡市がニューヨーク・タイムズ紙で2023年に行くべき都市の2番目に選ばれた。今までの市政や県政の取り組みが世界でも評価されているところでもあり、皆さんが県内で就職したい、定住したいと思っているのも、案外そういうところをしっかりと気持ちの中に根づかせていることが証明されているのかなと思う。

その中で、皆さんにとって、岩手県の中で、この場所が、この風景が好きだ、食べ物はこれが好きだ、というところがあると思う。それらをもっとブラッシュアップしていくと、もっと郷土愛の醸成につながり、社会減の歯どめや、幾らかでも流出のスピードが緩やかになるのではないかと思う。ぜひここが好き、ここはもっと磨き上げるべき、といった好きな風景や場所、食べ物があったら教えてほしい。

【回答：遠藤さん】

好きなのは岩泉町。夏休みは龍泉洞などに人がたくさん来て、風景がきれいと言ってくるが、どちらかというと、夏より冬の岩泉町が好きである。龍泉洞の中の水も少なくなって、とても透明度が高くてきれいに見えるし、外も雪化粧ですごく山の景色がきれいだなと思っている。

夏の岩泉町は知られていても、冬の岩泉町は知られていないと思うので、そこをどうにかPRできないのかなと思っている。

【回答：菊地さん】

岩泉町のヨーグルトはすごくおいしいと思う。県外でも人気があるという話を聞いている。

私は、ウニ、イクラなど海鮮系がとても好きで、鮮魚センターや卸で売っているところでは、すごく安く食べられたりする。リアス式海岸は全国に知られているが、意外とそういうところに人が来ることは少なく、都会の有名な市場に行ってしまうことが多いと感じる。岩手県ならではの魚介もあり、ウニなど特徴のあるものも多いので、いろいろ知られていけば、もっと来てもらえると思う。

また、岩手県は結構味が濃く、しょっぱいものが多いイメージがある。私はお餅の中にクルミの餡が入ったスープ、まめぶ汁がすごく好きである。独特だし好き嫌いが分かれてしまうが、あまり食堂でまめぶ汁が出ないと思っている。地元にあって郷土料理化しているものをいろいろな食堂で出してみるなど、いろいろな方に知ってもらえる機会もあれば、「食べに行ってみよう」「つくってみたいからどういう味なのか1回食べてみよう」など感じてもらえると思う。

【回答：土橋さん】

私は北上市の出身だが、展勝地が有名で、毎年春になるとお花見に行く。

こういう花見の祭りなどは、県外で話題になりやすいと感じている。私も県外に行ってみようと思うときがあるので、岩手県の魅力や食べ物もそうだが、もっとアピールして県外に知ってもらう機会をつくるのが大事だと思う。

【回答：姉石さん】

宮古市花輪にかせんべい工場があって、私は小学校のときから食べている。県外の人にもいかせんべいを知ってほしい。

○村上貢一議員

気持ちの中に郷土愛が育まれていると、都会に行ってもサケのように帰ってくるように、そういう受け皿を岩手県に我々はしっかりとつくっていかねばならないと思う。

○千葉盛議員

窪田さんと土橋さんに伺いたい。看護師の勤務地として沿岸部を希望する方が少ないようだが、周りの状況を聞かせていただきたい。

〔回答：窪田さん〕

沿岸地域の方は口調が荒いと感じる部分があり、内陸から来ている学生は、最初に患者とのコミュニケーションでつまずいてしまうことがある。

また、県内の中でも、県立中央病院や県立中部病院の方が、レベルが高い医療を学ぶことができる。

暮らしの面では、三陸沿岸道路はできたが、やはり距離があり、通勤のために車がないと不便であるため、内陸に行く学生が多いと感じる。

〔回答：土橋さん〕

私が岩手医科大学附属病院を選んだ理由は、症例数が県内で一番多いため、看護を学ぶための技術などをそういう環境で高めたいと思ったことがきっかけである。やはり、県立中央病院などの内陸の病院と、沿岸地域の病院を比べると、レベルや技術で差があると思う。

○千葉盛議員

私の知り合いも子育てをしながら看護師として釜石市で働いていたが、結局県外に行ってしまった。症例数やスキルアップの環境については解決していかなければならないと思う。

皆さんのお話を聞いていて、特段、移動手段に困っている様子はなかったが、先ほど三陸沿岸道路の話があった。岩手県の道路で不便を感じるものがあれば伺いたい。

〔回答：中村さん〕

三陸沿岸道路が開通したことによって、岩泉町から来ていた人は毎日車で通学できるようになった。

○鈴木あきこ議員

先ほど岩手県の好きなところを挙げていただいたが、岩手県の嫌なところはあるか。

また、大人のこういうところを直さないと岩手県がよくなるかということはあるか。若い方からの指摘をいただきたいと思うが、大人たちがもっと柔軟にしていってほしいと思うことがあれば伺いたい。

〔回答：遠藤さん〕

これは、私自身が覚えればいい話ではあるが、御年配の方になると方言がきつくて、アルバイトで接客をしていると、所々何を言っているのか戸惑うことがある。例えば、言語表のように、どのような意味か簡単に調べられると、対応しやすくなるのではないかと思う。

〔回答：窪田さん〕

高齢者は一日中家の中にいると、近所にしか目が向かないので、介護サービスを使うまでではない段階の高齢者が気軽に集まれる場所があるといいと思う。保健センターでも健康教室を行っているが、家族に送り迎えを頼むのも気が引けるし、バス停も遠く、そこに行くまでの移動手段に困っていると実習の際によく聞いている。高齢者が外に目を向けることができる場所と、高齢

者と子供が交流できる場所があるといいと思う。

○鈴木あきこ議員

県内各地でバスの路線廃止等があり、バス停が遠いという問題もあるほか、バスが一本も走っていないところに住んでいる高齢者の方々は、買い物や病院にも行けない状況である。県議会でも課題になっていることから、考えていかなければならないと思う。

○小林正信議員

奨学金の返還支援制度など、県でも若者に対する支援をさまざま行っているが、その制度を使う方がふえていかない状況である。若者がもっと活躍できるようになるために必要な支援をお聞きしたい。

また、エアコンがついていないという話があったが、具体的にどこについていないのか聞かせていただきたい。

最後に、カードゲームが好きだから都心に行くという話があったが、どのようなコンテンツがあれば、若者が引きつけられ、岩手県が盛り上がるのか伺いたい。

〔回答：土橋さん〕

看護学校では、県内の病院に何年か勤務すれば奨学金を返さなくてもよいという制度があり、利用している学生も結構いるが、私にとっては、その何年かというのが長くて、その間に他の病院に勤めたいとなるかもしれないので、奨学金制度を利用できなかった。もっと利用しやすい奨学金制度があればいいと思う。

エアコンについては、学校にはあるが、寮には1台もなく、各自で扇風機を持参して過ごしている状況である。

沿岸部は大きなショッピングモールやテーマパークなどの娯楽施設が少ないので、ふやしていければもっと楽しく生活できると思う。

〔回答：遠藤さん〕

若者が飛びつきやすいコンテンツについて、私自身、アニメが好きなのと、楽器をやるので、盛岡市のアニメ専門店や楽器店に行くことがあるが、アニメ専門店は、結構狭くて、そこでしか買えない本があまりない印象である。楽器店についても、ピアノとギターはたくさんあるが、ベースやドラムなどのバンドに必要な機材が少なく、探すのがすごく大変だったので、専門店がふえると趣味に時間を使えるのではないかと思う。

〔回答：菊地さん〕

私自身、支援制度について、大学に入ってから知った。入学前に、県庁や市役所などに行ってもポスターが貼られているだけで、こういう支援策があるということを教えてもらえることもなかった。自分で調べなければ情報が出てこないの、制度自体を広めていくところがあるといいと思う。

田舎になると複合施設が多く、専門店があまり多くないと感じる。複合施設の中にはいろいろなブースが入っているが、1店舗当たりのスペースが狭くなっているため、人気の商品や流行りの商品だけでいっぱいになり、どこに行っても見たことがあったり、持っているものだったり、新しい発見があまりない。市場として、すごくとどまった状態になってしまっていると思う。私は手芸品や手づくりのものを見るのがすごく好きなので、手作りの工芸品などが置いてある場所がふえると、買い物だけではなく、見るだけでも楽しんだりできるのではないかと思う。

〔回答：窪田さん〕

看護師はシフト制なので、休みをとりづらいというイメージがあり、子供を産んでも休みをとれないなら、妊娠をもう少し遅らせようと考えてしまうこともあると思う。自分たちに対する支

援もそうだが、例えば、休みを取っている職員をカバーしてくれる職員に対しても何か支援があればお互いに幸せな空間になるのではないかと思う。

また、屋内で子供が遊べる場所が本当に少ないと思う。岩手県は雪が降るので、屋内で力いっぱい遊べる施設があれば、もっと人が集まると思う。

〔回答：中村さん〕

学校の寮にエアコンがついていない。寮の部屋で扇風機を2台同時に付けるとブレーカーが落ちてしまう。

正直、奨学金などの支援制度を知らなくて、内定をもらった後に支援制度があることを知った。就職先を決める前に制度を知るための講習会などがあるといいと思う。

若者へのコンテンツについて、宮古市はキャトルがなくなってしまい、遊ぶところが少ないため、そういう場所をふやしていけばいいのではないか。

〔回答：姉石さん〕

今まで支援に頼ろうと考えてこなかったため、支援制度についてあまりわかっていない。支援についての説明を学校で授業時間を使って詳しくやることで生徒が理解してくれるのではないかと思う。

宮古市に唯一ある映画館は、上映したりしなかったりするもので、しっかりとした映画館が宮古市にあったらいいと思う。

○小林正信議員

若者支援について、周知も必要だし、見つけやすい制度にしなければだめだと思った。

また、若者が楽しめる文化的な支援についても県行政として後押しできるような取り組みもしたいと思う。

○畠山茂議員

県内の中でも特に沿岸地域は、人口減少と高齢化が進んでいるほか、水産業では主要魚種がとれなかったり、建設業では復興特需が終わり仕事がなかったり、厳しい状況である。そのような中で、今沿岸地域に住んでいて、景気や経済状況をどのように感じているのかお聞きしたい。

〔回答：菊地さん〕

マクドナルドでアルバイトをしているが、平日でも休日でも混んでいるので、その視点だけで考えると経済は回っていると言えるかもしれない。

一方で、自分自身が本屋に買い物に行くと、日に褪せてしまった本や、セールになっている本があり、売れていないのではないかと感じることもあり、頻繁に買う人が多くないコンテンツに関しては、経済自体が回ることがあまり多くないと思う。

また、アルバイトの際、お会計の時に財布を見てしまうことがあるが、ブランド物を持っている人が多い印象である。

食べ物に関しては、毎日必ず摂取するものということもあり、多くの人の視点が向いているのではないかと感じるが、モノに関しては、頻繁に買わずに、高くてもいいものを買うという感じが多いのではないかと思う。

○畠山茂議員

国や県、市町村などの行政や学校では、できるだけ県内に就職してほしいことから情報発信をしているが、行政や学校からの情報発信は届いているのか、どのように受けて止めているのかお聞きしたい。

〔回答：姉石さん〕

金型技術科では、地元就職すると学費の一部が戻ってくるという制度があり、学校として地元就職を目指しているのだと感じた。

〔回答：中村さん〕

宮古高等技術専門校では、各企業が学校に来て講習会などをしてくれるため、就職先はそのときに見つけたこともあり、自動車分野に関しては情報発信ができていていると感じる。

〔回答：土橋さん〕

県内就職をあっせんするための情報提供は、学校にお知らせが来るため、周知されている。他にも、就職説明会や病院で説明を聞けたりする行事をインターネットで調べることができているため、情報は入ってきている。

〔回答：窪田さん〕

社会人入学選考試験について、自分で調べたときに情報はあったが、学校で周りの人に社会人入学選考試験で入学したと言うと驚かれることがあるため、自分でやりたいと思わなければ、社会人入学選考試験があるということに気づかない人が多いのではないかと思う。看護師は人手不足なので、社会人入学選考試験で受けたいという需要はあると思う。社会人入学選考試験をしていることを、病院や身近なところで発信していくといいと思う。

〔回答：菊地さん〕

高校は、商業高校だったため、学校側が求人を受けていてその求人の中から自分に合った職業を探して就職しているという友達があった。

私自身の就職に関しては、目指している分野が狭くて新しいもので、中途採用の企業が多いため例外になってしまうが、新卒採用の情報に関しては学校側から紹介されている。また、企業研究会というイベントのポスターが学校の掲示板に掲示されており、授業の一環として企業の説明会を受けるということもあった。今までの学校では、就職に関する情報発信はすごく充実していると思う。

〔回答：遠藤さん〕

大学入学の時に、岩手県に住んでいる人は入学金が安くなるという支援がわかりやすく書いてあり、こういうことをやっているのだと驚いた。

入学後は、講義として企業説明会があったり、学校の掲示板には奨学金の返還支援制度などのポスターが貼られていたり、情報提供としてはかなりわかりやすいし、十分に受けられていると思う。

◆ 感想など

○遠藤さん

自分自身を含め、参加された皆さんは県内就職する方たちだったので、予想どおりの部分はあったが、寮にエアコンが整備されていないところがあるなど、驚いた部分もあった。予想どおりだった部分と驚きの両方があったのでよかった。

○菊地さん

私自身が知らない分野を学んでいる方々がどういう苦労をされていて、どういうことを学んでいて、その分野から見た視点はどのように見えるのかをきちんと知るよい機会になり、とても有意義な時間だった。

○窪田さん

子育てをしながら学ぶ大変さや、こういう支援が欲しいということを書いたのでよかった。

また、ほかの分野の学生のお話が聞けて、違う分野にも興味を持つことができた。

○土橋さん

こういう機会は初めてで、議員とお話しすることもなかなかないので、すごくいい体験になった。

エアコンのことがすごく話題になってしまったが、ぜひよろしくお願ひしたい。

○中村さん

自分が全然知らなかった分野からの視点や意見を聞けて学ぶことができ、とても勉強になった。

○姉石さん

社会のことについて自分から触れようと思ったことがなかったので、皆さんの意見を聞いて、もっと岩手県のことを考えないといけないと思った。

○千葉秀幸座長

若者の県内定着というテーマであったが、幅広い話題が出て、非常に有意義であったと思う。

子育て世代の若い人たちは、生活する環境がどれだけ豊かであるかということをもとめ、その一つが、スーパーや病院、学校が近くにあるということをもと準に住む場所を決める傾向にあると思っており、行政と政治の課題解決に向けて取り組んでいくべきことだと思っている。そこから定着を目指していき、定着していただいてから、今度はその地域をどう盛り上げていくかは、そこに住んだ方々がコミュニケーションの中で取り組んでいき、岩手県全域を盛り上げていくことが必要だと思ふ。

本日いただいた御意見・御提言は全議員で情報共有し、今後の議会活動に生かしていく。

お忙しいところ御参加いただいたことに感謝を申し上げ、閉会とさせていただきます。